

第6回やさになちフォーラム 安心を届けるやさしい日本語

2026年2月20日（金）14：00-16：30

菊池 哲佳（きくち あきよし）

明星大学人文学部国際コミュニケーション学科 准教授
一般社団法人 多文化社会専門職機構 事務局長・理事
e-mail: akijoschi@gmail.com

1

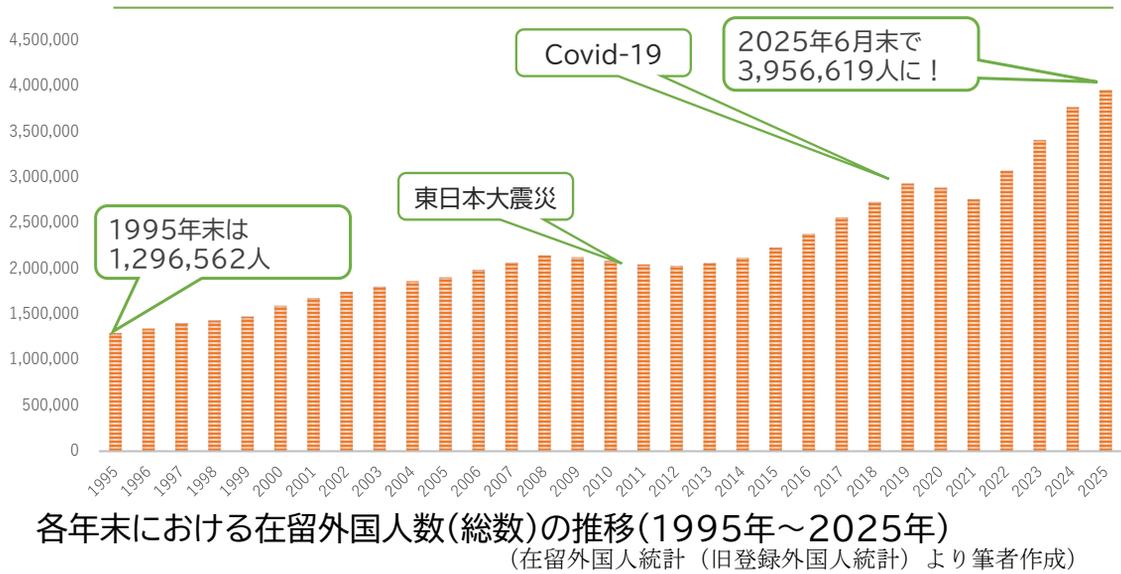
「やさしい日本語」とは

やさしい日本語の歴史は、1995年の阪神・淡路大震災に遡ります。この震災のとき、日本人の死傷者は約1%でしたが、外国人の死傷者は2%以上でした。これ以降、外国人に対しても迅速に災害などの情報伝達を行う手段として取組が始まり、その後、新潟県中越地震(2004年)や東日本大震災(2011年)を経て、災害時のやさしい日本語での発信の取組が全国に広がりました。一方、平時のやさしい日本語での情報発信も、2000年代に入ってから、地方公共団体や国際交流協会が始まっています。近年では、外国人観光客とのコミュニケーションや、外国人住民と日本人住民の交流を促進する手段としてやさしい日本語を活用した取組も進んでいます。

出入国在留管理庁・文化庁(2020)『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』p.4

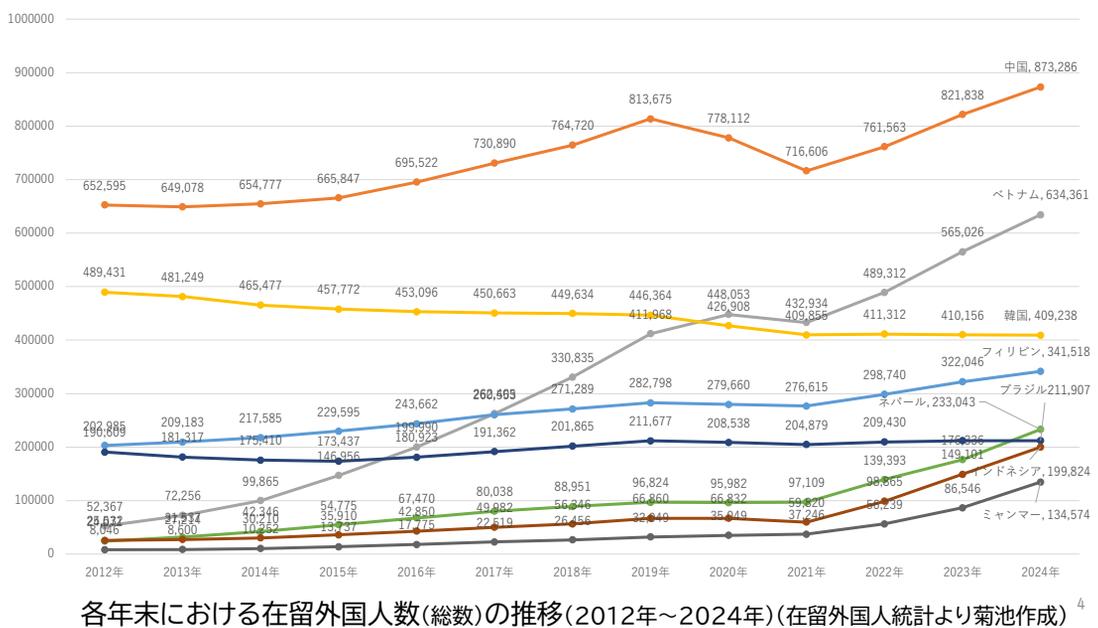
2

多文化化する地域社会



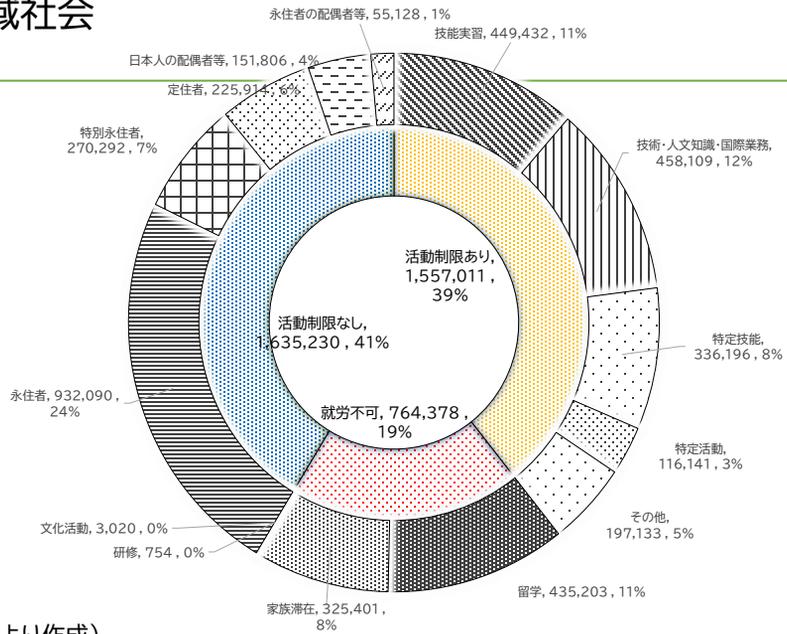
3

多文化化する地域社会



4

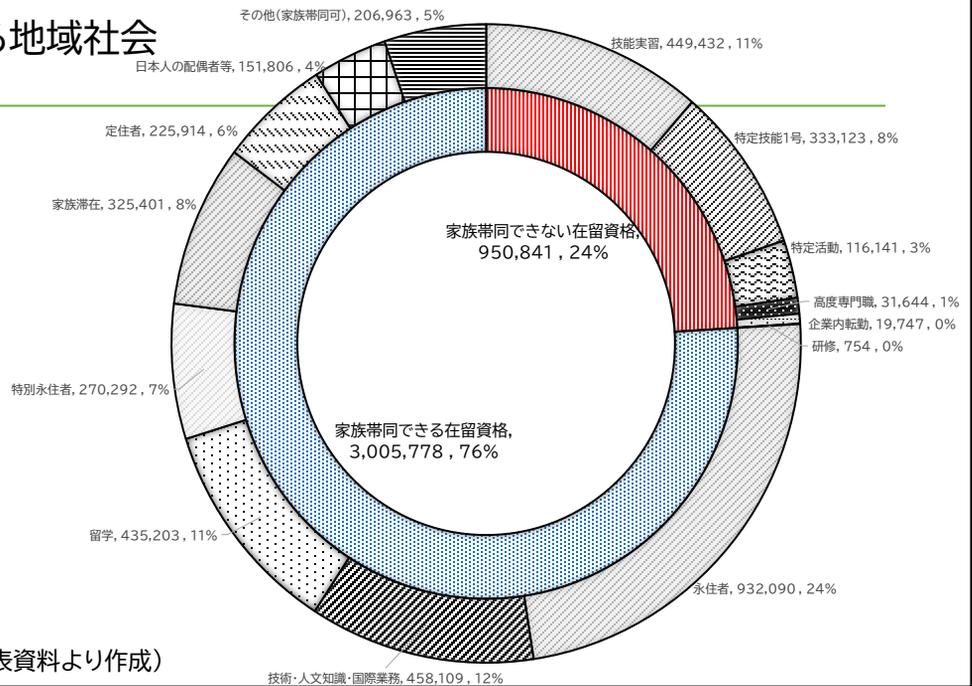
多文化化する地域社会



(2025年10月10日
出入国在留管理庁報道発表資料より作成)

5

多文化化する地域社会



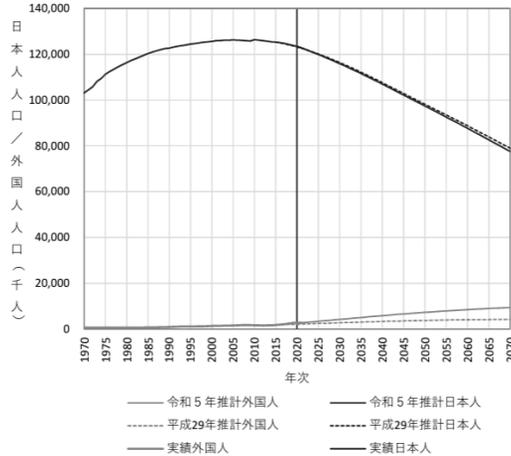
(2025年10月10日
出入国在留管理庁報道発表資料より作成)

6

多文化化する地域社会

国立社会保障・人口問題研究所
(2023)による推計
日本の総人口は、2070年には8700万人にまで減少。
日本に住む外国人の割合は、
総人口の2.2%(2020年)から
2070年には10.8%にまで増加
(国立社会保障・人口問題研究所
2023:55)。

図IV-1-1 日本人人口と外国人人口の推移(出生中位(死亡中位)推計)

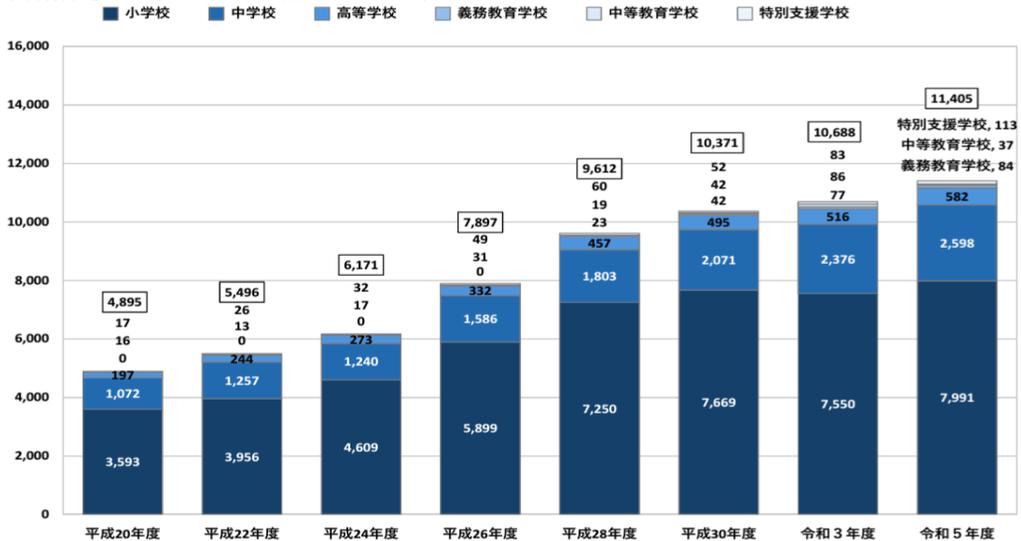


早ければ2040年に10%を超えるとの見通しも
(2025年7月末 法務大臣記者会見)

7

多文化化する地域社会

日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数



文部科学省総合教育政策局国際教育課(2024年8月)⁸

8

東日本大震災での仙台市における外国人被災者支援

仙台国際交流協会では、仙台市が設置した仙台市災害多言語支援センターを3月11日から運営。

言葉や文化の違いから情報を得られないため支援を受けられないおそれがある外国人に対し、必要な情報を多言語化して提供した。

9

9

安心を届けるやさしい日本語

- 多言語情報提供を通じて「安心」を届ける。
- 多言語情報は外国人被災者だけではなく避難所運営者らにも役立った。

10

10

安心を届けるやさしい日本語

外国人への対応の際、「災害時多言語表示シート」が役立った(仙台市立原町小学校)

日本安全教育学会ほか2011年9月『東日本大震災における学校の被害と対応に関するヒアリング調査 記録集』

区役所や国際センター等の巡回訪問は、要援護者、路上生活者、外国人の対応に役立った

仙台市教育局2011年9月『仙台市 各学校における震災対応』に関するまとめについて

11

多文化共生時代に求められる連携・協働・ネットワーク

「顔の見える」関係づくりを通じて、大規模災害時のようにマニュアルでは対応できない状況下においても機能するネットワークを築く

12

多様な人をつなぐやさしい日本語

やさしい日本語でのコミュニケーションを通じて、平時(=災害が起きる前)から多様な人と人がつながる。

- ➡ 災害という「想定外」に対応するためのネットワークに。
- ➡ 災害時の共助に。

13

13

多文化共生の実践としての「やさしい日本語」

「普通の日本語」と「やさしい日本語」がそれぞれ異なる言語として位置づけられる現状に留まらず、誰にとっても分かりやすい日本語となるように探っていくプロセスにこそ、「やさしい日本語」の本質的な意義がある(菊池2019)

優しい やさしい日本語 易しい

14

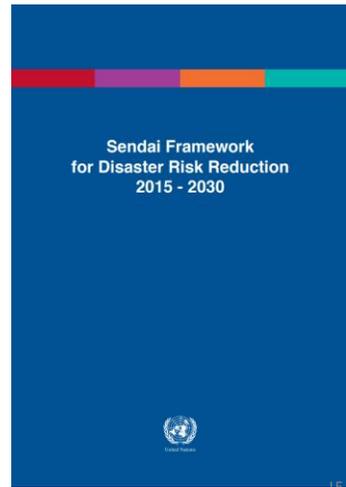
14

外国人と共につくる地域防災

『市民のための「仙台防災枠組
2015-2030」』（防災・減災日本
CSOネットワーク）



‘Sendai Framework for
Disaster Risk Reduction
2015-2030’ (United Nations
Office for Disaster Risk
Reduction (UNDRR))



15

外国人と共につくる地域防災

■ 仙台防災枠組の特徴

- ・ 災害による死亡者の減少など、地球規模の目標を初めて設定。
- ・ 防災の主流化、事前の防災投資、復興過程における「より良い復興(Build Back Better)」などの新しい考え方を提示。
- ・ 防災・減災での女性や子ども、企業など多様なステークホルダーの役割を強調。

“Migrants contribute to the resilience of communities and societies and their knowledge, skills and capacities can be useful in the design and implementation of disaster risk reduction” (Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030) (移民は地域や社会のレジリエンスに寄与する。移民の知識、技術、能力が防災・減災の仕組みづくりと実施に有効である。)(仙台防災枠組2015-2030)

16

16

まとめ

- 多文化化する地域社会では、情報の受け手のことを考えて、情報のかたちと情報の届け方も多様化することが大切です。
- 災害時、やさしい日本語は外国人被災者に、また地域社会全体に安心を届けます。
- やさしい日本語は、多様な人と人をつなぎます。そのことは災害時における共助のネットワークにもつながります。

17

17

参考文献

- 庵功雄, 2016, 『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波書店
- 河北新報, 2011, 「「避難」言葉の壁厚く 隣人の存在命運分ける」, 2011年6月28日朝刊
- 菊池哲佳, 2019, 「「多文化共生」の実践としての「やさしい日本語」:自治体施策の現場にみる「やさしい日本語」の考察」庵功雄・岩田一成・柳田直美編『<やさしい日本語>と多文化共生』ココ出版
- 国立社会保障・人口問題研究所, 2023, 「日本の将来推計人口(令和5年推計)」
- 出入国在留管理庁・文化庁, 2020, 『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』
- 仙台国際交流協会, 2012, 「仙台市災害多言語支援センター活動報告」『「多文化防災」の協働モデルづくり報告書』財団法人仙台国際交流協会
- 仙台市教育局, 2011, 「『仙台市 各学校における震災対応』に関するまとめについて」仙台市教育局
- 日本安全教育学会・全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会・東北大学防災科学研究拠点, 2011, 「東日本大震災における学校の被害と対応に関するヒアリング調査記録集」
- 松尾慎・菊池哲佳・モリス J.F・松崎丈・打浪(古賀)文子・あべやすし・岩田一成・布尾勝一郎・高嶋由布子・岡典栄・手島利恵・森本郁代, 2013, 「社会参加のための情報保障と『わかりやすい日本語』—外国人, ろう者・難聴者, 知的障害者への情報保障の個別課題と共通性」『社会言語科学』社会言語科学会

18

18